

様式第 6 号(第 2 条関係)

委員会等の会議録

1 会議名	愛南町スポーツ振興懇話会	
2 議題	(1) 町のスポーツ振興の取組について(報告) (2) 総合型スポーツクラブについて(情報提供) (3) 今後の進め方 (4) その他	
3 開催日時	令和 6 年 3 月 26 日 (水) 18 時 30 分から 20 時 00 分まで	
4 開催場所	愛南町役場 3 階 第 2 会議室	
5 傍聴者数	0 人	
出席者		
6 委員氏名	斎藤 武俊、中井 孝一、菅原 リエ、門田 真美、田村 淳、 武田 明美、山本 肖子、大野 甲子彦	
7 担当所属	所属名	生涯学習課
	担当職員 (職・氏名)	課長 織田 浩史 課長補佐 中田 憲克 課長補佐 濱岡 邦之
8 その他の 出席職員	所属名	愛南町教育委員会
	出席職員 (職・氏名)	教育長 中尾 茂樹
	所属名	えひめ広域スポーツセンター
	出席職員 (職・氏名)	クラブアドバイザー 伊賀上 哲旭 主任指導員 菅野 達也 主任指導員 林 克馬
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
中田課長補佐	定刻となりましたので、ただ今から令和6年度愛南町スポーツ振興懇話会を始めます。 開会に当たり、中尾教育長が御挨拶を申し上げます。
中尾教育長	(開会挨拶)
中田課長補佐	本会議は昨年度に続き第2回目ですが、事務局が昨年度から変わっていますので、事務局のみ自己紹介します。
事務局	(自己紹介)
中田課長補佐	本日は、総合型スポーツクラブについての情報提供を行っていただくため、公益財団法人愛媛県スポーツ振興事業団えひめ広域スポーツセンターから、クラブアドバイザーの伊賀上様と主任指導員の菅野様、林様に御出席いただいています。よろしくお願いします。 それでは、協議事項(1)町のスポーツ振興の取組について事務局から説明します。
中田課長補佐	(資料に沿って説明) 今の説明について、御意見、御質問はありませんか。
委員一同	(意見なし)
中田課長補佐	続いて、総合型スポーツクラブについての情報提供として、えひめ広域スポーツセンター、クラブアドバイザーの伊賀上様から説明をお願いします。
伊賀上クラブ アドバイザー	(資料及びスライドにて説明)
中田課長補佐	続いて、今後の進め方について説明します。 (資料に沿って説明) このことについて、何か御質問はありますか。
委員一同	(意見なし)

中田課長補佐	それでは、(4)その他について、これまでの説明や全体を通して、御意見や御質問はありますか。
大野委員	総合型スポーツクラブの収入源は会費だけですか。スポンサーのような、地域を応援する企業などの事例はありますか。
伊賀上クラブアドバイザー	財源については、全てのクラブではないですが、寄付金や、協賛金をもらっているクラブもあります。クラブの広報誌に広告を掲載して広告料として集める場合もあります。
菅原委員	総合型スポーツクラブになったら、これまでの団体で負担軽減になるものがありますか。
中田課長補佐	これまで個々にされていた事務の内、保険の加入や大会への申し込みなど集約できる部分は軽減できると思います。
伊賀上クラブアドバイザー	日々の活動の中で、練習の日程を組んだり、遠征に連れて行くことなどは各団体でやらないと難しいところはあると思います。
菅原委員	スポーツ少年団については、保護者がかなり手伝っていて、それが中学校以上になると少なくなっていると思います。
中尾教育長	総合型スポーツクラブでは、幼稚園から高校まで一貫したクラブはありますか。
伊賀上クラブアドバイザー	中学校、高校に関しては、部活動なので、基本的には小学校の時にクラブに所属していて、一旦抜けていくところはありません。 ただ、今、部活動の地域移行が進んでいるところは、部活動の受け皿として一貫してやっていこうとしているところがあります。
中尾教育長	たくさんの種目があれば、文化部も含め、自分の可能性を見出すことができますが、そういう場所として総合型クラブがそれを担えるということで良いですか。
伊賀上クラブアドバイザー	様々の団体の協力を得られればそうなります。

ドバイザー	
斎藤委員	総合型クラブではどのくらいの種目がありますか。
伊賀上クラブアドバイザー	それぞれのクラブの規模によりますが、私が関わっているクラブでは、教室、サークルも含めて 20 弱くらいになります。 文化部は書道だけですが、サッカーや野球などすでに昔からクラブとしてある種目は入っていません。今までにない種目を取り入れ、フットサルやチアリーディングなど地域になかった種目を取り入れています。
斎藤委員	小さい所だと、クラブが多いと一つのクラブの人数が少なくなってしまうますが、種目が多いといろいろなことを選んでできるので良いと思います。どのような形が理想的なのでしょう。
伊賀上クラブアドバイザー	そこが一番難しいところですが、小さい所だと新しい団体を作っても子供の取り合いになってしまうことは本末転倒であるし、既存の団体と調整をしながら、困っていること、一緒にやった方が効率の良いことなどをやっていくと良いと思います。
山本委員	今の子供たちは、スポーツを掛け持ちでやっている子は多いと思います。この発達、発育の段階ではいろいろなスポーツを経験した方が良いと思います。ただ、個人種目のクラブよりも団体種目のクラブに子供を取られてしまいます。うまくクラブ間の両立はできるのでしょうか。
伊賀上クラブアドバイザー	ここの難しいところは、種目によって年間のスケジュールがすでに決まっており、中学校だと総体の後に新人戦があって、競技の大会が重なっていたりするので、種目間で行き来できるような合意形成や大会の調整が必要かと思います。現状としては、競技種目として動いているところが難しいと思います。
門田委員	私が今指導しているところは、4月から10月のソフトボール大会までの間は、週2回ソフトボールで週1回サッカーをしていて、ソフトボール大会が終わると週2回サッカー、週1回ソフトボールをします。その合間に、男の子は8月には相撲をしたりと、大会に合わせて練習種目を変えています。大会もその

	種目専門で行っているわけではないので、負けることも多いのですが、その辺考慮して大会運営側も1部2部と分けてくれていて、子供たちも楽しくやっています。ほかの学校の、1種目のクラブにはちょっと参加できないという子供もクラブに加入しています。
武田委員	剣道のクラブは人数が少ないので、三つのクラブが一緒に練習をしたり、ほかのクラブの練習に個人で参加しても良いようにしています。
伊賀上クラブアドバイザー	愛南町のスポーツ少年団の加入率が4割くらいとなっていますが、残りの6割の子供たちは、スポーツ少年団以外で活動しているのですか。
大野委員	していないと思います。
伊賀上クラブアドバイザー	どこも二極化が進んでいると思います。 競技性を求める種目より、いろいろな種目があって、その残りの6割くらいの子供が、これならやってみようかなというような受け皿を作ることが良いと思います。
中田課長補佐	今後は、先ほど御説明した通りの予定で進めさせていただいたと思います。 それでは、以上をもちまして、令和6年度愛南町スポーツ振興懇話会を終了します。